

オレンジサポーター養成講座

Q1「オレンジサポーター養成講座」ってなに？



A1: 認知症がどんな病気か、認知症の人への接し方の基礎を学ぶことができる講座です。65歳以上の4人に1人は認知症または認知症予備軍といわれ、誰もが認知症の当事者になりえます。一緒に認知症について学びましょう！

Q2「認知症サポーター養成講座」と違うの？



A2: 令和3年10月から、明石市では認知症サポーター養成講座を、オレンジサポーター養成講座という名称に変更しました。もっとたくさんの市民の方に受けてもらうため、より馴染みやすい名前ということで、認知症のシンボルカラーであるオレンジからとったものです。また、シルバーサポーター、ゴールドサポーターというステップアップ講座も順次開催し、地域支援を進めてまいります。

※ お申込み・お問い合わせ

明石市 福祉局 高齢者総合支援室 高年福祉係 TEL:(078)918-5288 FAX:(078)918-5106

- 目的 認知症を理解し、認知症の人に対しどのように接するかを学びます。
- 内容 ①認知症がどんな病気か、②認知症の人への接し方、をグループワークや寸劇、物語を通じてわかりやすく説明します。
- 時間 **90分程度** ※ご相談いただいた時間に応じて内容を変更します。
- 費用 **無料** ※テキストなど資料類も全てこちらで準備いたします。
- 準備いただくこと 会場・画像を映し出せる環境(スクリーンやテレビ画面等)の確保



受講した方にプレゼント..

★講座の中身を一部紹介！

認知症って、どうしてるの？

①脳の萎縮(脳が縮んで小さくなる)
脳卒中や脳血管の障害(血管の詰まりなど)
②記憶力、知的な働きなど、脳の機能低下
③日常生活や社会生活をうまく送れない
④意識ははっきりしている

↓

認知症と診断

「認知症によるもの忘れ」と「加齢によるもの忘れの違い」 JAAO

認知症によるもの忘れ	加齢によるもの忘れ
●体験全体を忘れる	●体験の一部を忘れる
●新しい出来事を記憶できない	●ヒントを与えられれば思い出せる
●ヒントを与えられても思い出せない	●時間や場所など見当がつかない
●時間や場所などの見当がつかない	●日常生活に支障はない
●日常生活に支障がある	●もの忘れに対して自覚がある
●もの忘れに対して自覚がない	

認知症の中核症状 JAAO

中核症状 認知機能障害 記憶障害・見当識障害・判断力低下など

1 記憶障害 新しく経験したことを記憶することが困難になる。	2 見当識障害 ここではどこで、今何しているのか、わからなくなる。	3 判断力の低下 判断を定めて、継続する。判断できない。結果として危険な行動が起きる。
-----------------------------------	--------------------------------------	--

具体的なたつのポイント JAAO

- ・まずは見守る
- ・余裕を持って対応する
- ・声をかける時は1人で
- ・後ろから声をかけない
- ・相手に目線を合わせて優しい口調で
- ・おだやかに、はっきりした声で
- ・相手の言葉に耳を傾けてゆくり対応する

明石市オリジナルグッズを作成しました
身に着けて啓発活動にご協力ください！

※一般受講者はバッジ、学生にはフリクションマーカーをお渡します

